1　人口（住民基本台帳人口）

項　　目	H29（決算年度）	H28（1年前）	前年度比（増減数）	前年度比（増減率）	H19（10年前）	H9（20年前）	S62（30年前）
人口（1月1日現在）	184,667人	183,589人	＋1,078人	＋0.6%	172,657人	162,713人	158,392人
0～14歳	23,754人	23,947人	▲ 193人	▲ 0.8%	23,111人	21,532人	30,233人
〔構成比率〕	〔12.9%〕	〔13.0%〕	▲ 0.2ﾎﾟｲﾝﾄ	－	〔13.4%〕	〔13.2%〕	〔19.1%〕
15～64歳	115,598人	115,037人	＋561人	＋0.5%	115,960人	121,051人	116,957人
〔構成比率〕	〔62.6%〕	〔62.7%〕	▲ 0.1ﾎﾟｲﾝﾄ	－	〔67.2%〕	〔74.4%〕	〔73.8%〕
65歳～	45,315人	44,605人	＋710人	＋1.6%	33,586人	20,130人	11,202人
〔構成比率〕	〔24.5%〕	〔24.3%〕	＋0.2ﾎﾟｲﾝﾄ	－	〔19.5%〕	〔12.4%〕	〔7.1%〕

（概　況）

○　平成２９年度（平成３０年１月１日）の住民基本台帳人口は、約１８万５，０００人で、前年度と比べて約１，１００人、０．６％増加して過去最多となりました。

○　年齢区分別では、年少人口が減少して、老年人口が増加しています。

①　年少人口（０～１４歳）は、約２万４，０００人
（▲約２００人、▲０．８％）

②　生産年齢人口（１５～６４歳）は、約１１万６，０００人
（＋約６００人、＋０．５％）

③　老年人口（６５歳以上）は、約４万５，０００人
（＋約７００人、＋１．６％）

○　３０年前の昭和６２年度（昭和６３年１月１日）との比較では、人口は約２万６，０００人（＋１６．６％）増加しています。

○　年齢区分別では、

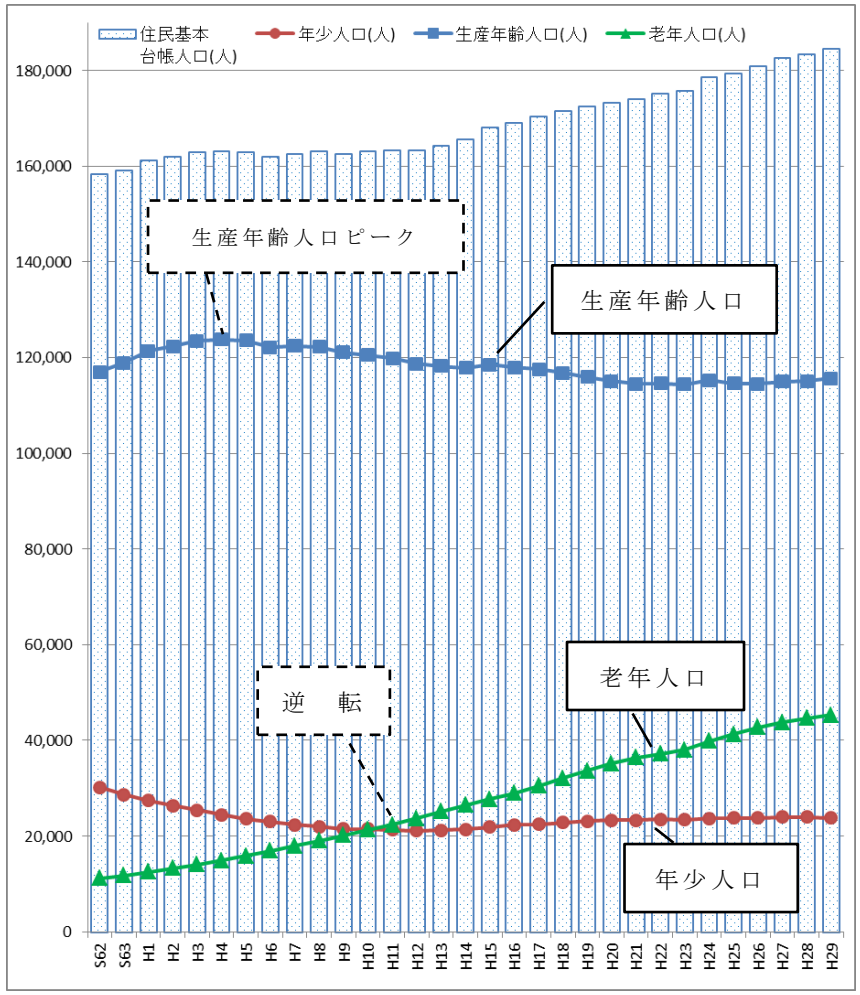
①　年少人口
約３万人　→　約２万４，０００人（約１／５（２１％）減少）

②　生産年齢人口
約１１万７，０００人　→　約１１万６，０００人（微減）

③　老年人口
約１万１，０００人　→　約４万５，０００人（約４倍に増加）

となって、少子高齢化が進展しています。

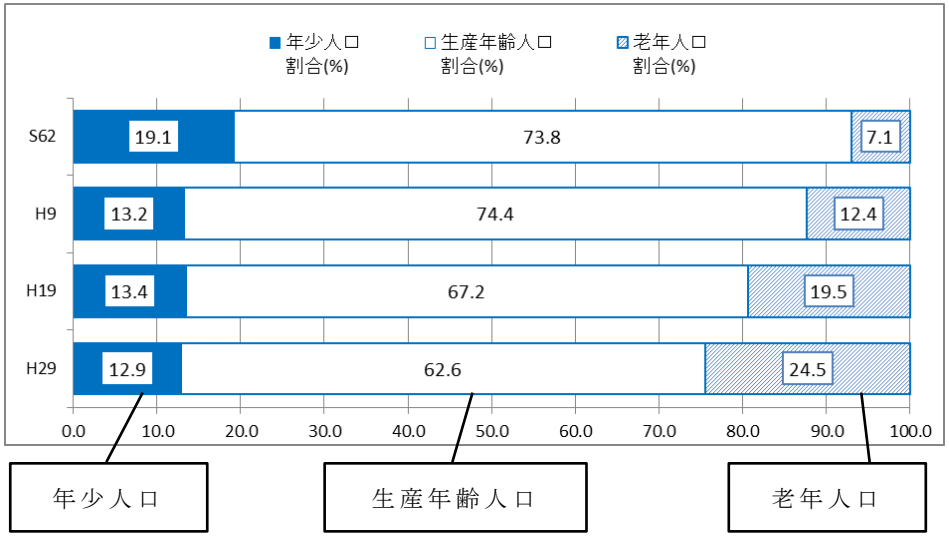
【グラフ】住民基本台帳人口の推移　（単位：人）



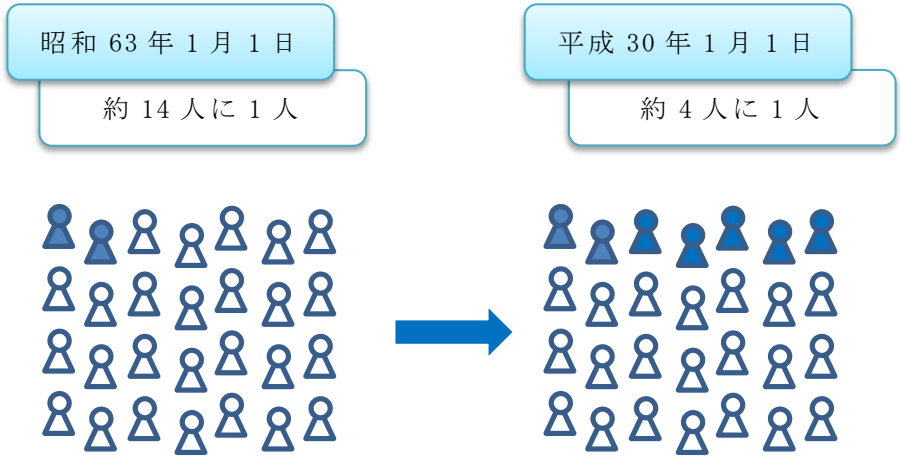
○　年少人口と老年人口は、平成１１年度（平成１２年１月１日）に逆転して老年人口の方が多くなりました。

○　生産年齢人口は、平成４年度（平成５年１月１日）の約１２万４，０００人をピークに減少傾向です。

【グラフ】住民基本台帳人口構成比率の推移（単位：％）



■　高齢の方（６５歳以上）の割合（全人口に占める割合）



２　決算規模・決算収支

項　　目	H29（決算年度）	H28（1年前）	前年度比（増減数）	前年度比（増減率）	H19（10年前）	H9（20年前）	S62（30年前）
歳入総額	687.9億円	688.0億円	▲ 0.0億円	▲ 0.0%	582.0億円	491.9億円	359.4億円
歳出総額	655.8億円	662.8億円	▲ 7.0億円	▲ 1.1%	568.0億円	475.4億円	350.0億円
歳入（市民一人当たり）	372,525円	374,733円	▲ 2,208円	▲ 0.6%	337,077円	302,296円	226,920円
歳出（市民一人当たり）	355,151円	361,032円	▲ 5,881円	▲ 1.6%	328,990円	292,201円	220,997円
収支							
歳入歳出差引額*	32.1億円	25.2億円	＋6.9億円	＋27.6%	14.0億円	16.4億円	9.4億円
実質収支*	29.2億円	23.0億円	＋6.1億円	＋26.6%	13.3億円	16.2億円	9.4億円
単年度収支*	6.1億円	▲ 6.0億円	＋12.1億円	▲ 202.2%	▲ 4.2億円	3.4億円	▲ 1.0億円
実質単年度収支*	6.3億円	▲ 6.4億円	＋12.7億円	▲ 197.8%	▲ 7.6億円	7.2億円	17.5億円
実質収支比率*	8.5%	6.7%	＋1.8ﾎﾟｲﾝﾄ	－	4.2%	5.3%	4.7%

（概　況）

○　平成２９年度の普通会計決算は、
①歳入決算額　約６８７．９億円（▲約４００万円、▲０．０１％）
②歳出決算額　約６５５．８億円（▲約７．０億円、▲１．１％）
となり、歳入歳出決算ともにこれまでで２番目に大きくなりました。

○　歳入歳出の差引額*は約３２．１億円の黒字となり、このうち平成３０年度に繰り越して行う事業の財源として使う約２．９億円を引いた実質収支*は、約２９．２億円の黒字となりました。
実質収支*は、前年度以前からの収支の累積で、この中には前年度の実質収支*が含まれています。

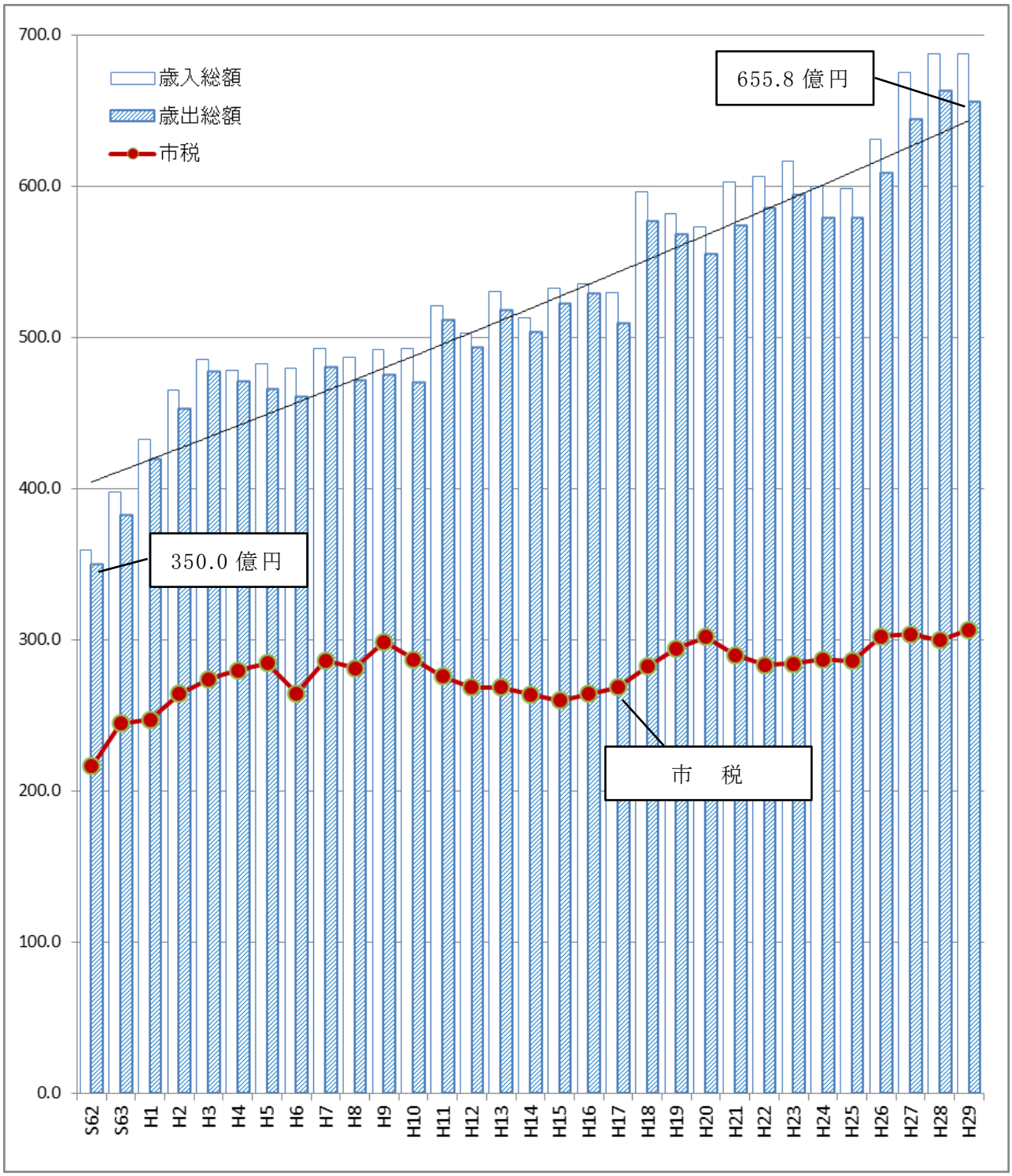
○　平成２９年度の歳入歳出決算には、前年度（平成２８年度）の収支剰余金、財政調整基金*（市の貯金）の取崩しや積立てによる財政調整の結果も含まれています。
これらの影響を除いた平成２９年度１年間だけの実質的な収支状況（実質単年度収支*）は、主に市税の増加から約６．３億円の黒字となりました。

○　実質収支*の黒字・赤字の程度を表す実質収支比率*は８．５％となり、近年の平均的な水準（過去５年平均７．２％）よりもやや高くなりました。
（実質収支比率＝実質収支／標準財政規模*）

（　「*」の記号がついている用語は、用語解説があります。）

【グラフ】決算規模の推移

（単位：億円）

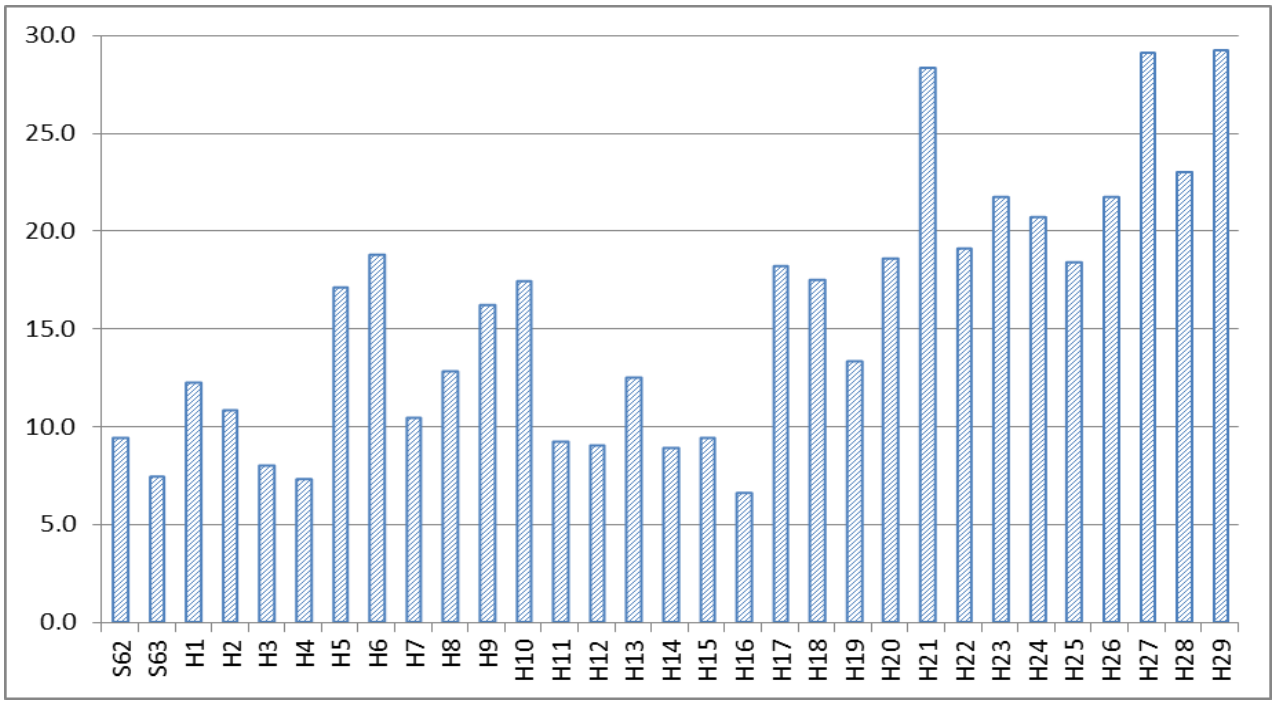


○　歳入歳出決算額は、継続的な増加傾向にあります。
　昭和６２年度の歳出決算額は約３５０．０億円でした。
　平成２９年度は約６５５．８億円なので、この３０年間で歳出は約１．９倍に増加しています。

○　歳出の増加に対して、市税収入は横ばいで大きく増加していません。

【グラフ】実質収支（累積）の推移

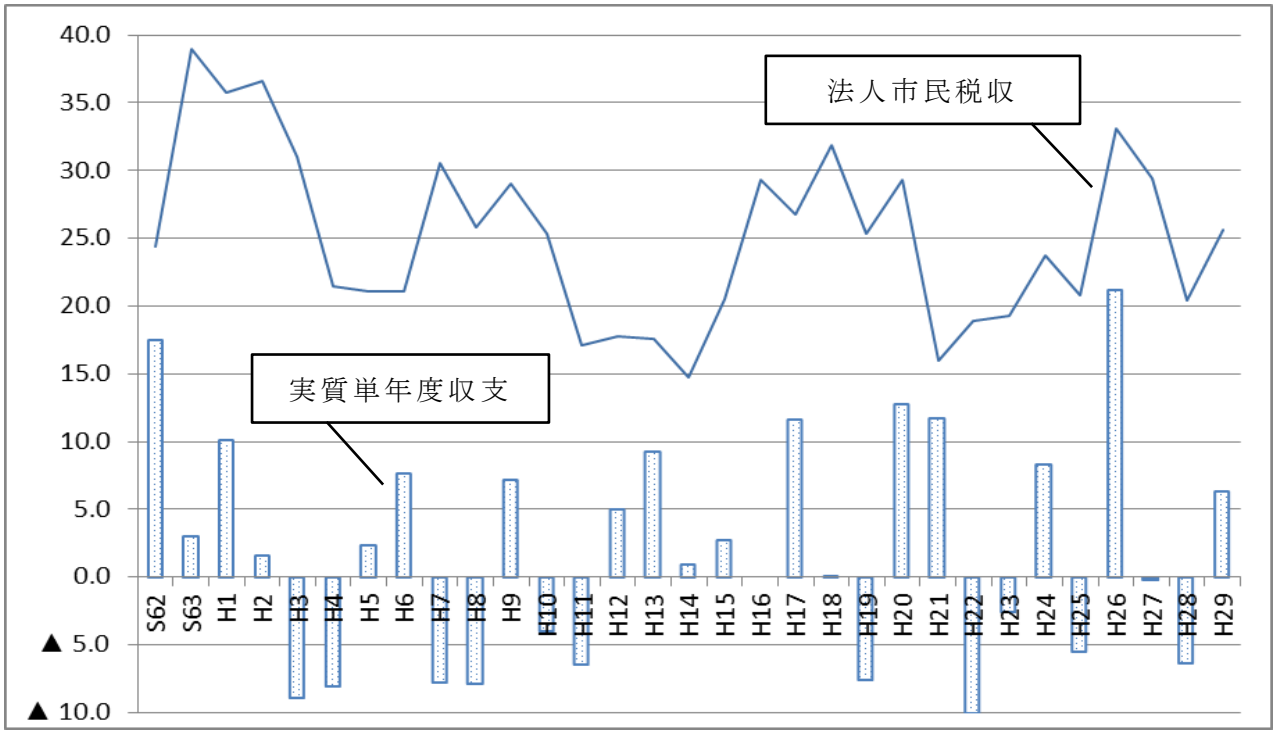
（単位：億円）



○　実質収支*（累積の黒字・赤字）は概ね１０億円から３０億円の間で推移していますが、財政規模の増加などに伴いやや増加傾向にあります。

【グラフ】実質単年度収支（１年間）の推移

（単位：億円）



○　実質単年度収支*（決算年度１年間の実施的な黒字・赤字）は、この３０年間で黒字１８回・赤字１２回です。法人市民税の例のように、市の収入は安定的とは限らず変動があるため、黒字・赤字の波が生じる一因と考えられます。